「OMR採点処理」マニュアル

目　　次

0 章 「OMR採点処理」のご紹介　1
　Step-0　このファイルの目的　2

1 章　採点の手順の概要　～　年度はじめの作業　2
　Step-1　学年定数と定義コードの設定　3
　Step-2　生徒名簿の入力　4

2 章　各テストごとの作業
　Step-3　OMRデータの読み込みとＧＣＮ（年組番）の妥当性の検証　5
　※　GCN（年組番）の妥当性の検証　6
　Step-4　採点定義の決定　7
　Step-5　カードなし生徒と名簿順のマーク値の確認　8

3 章　採点結果の表示
　Step-6　得点合計計算（観点・領域別の指定なし）　9
　Step-7　観点・領域別の得点集計　10
　Step-8　各問題ごとの正解数と正解率　10

4 章　補足説明（トラブルシューティング）
　【P.5の補足】　Step-3　でマクロが起動しなかった場合　11

　【P.5の補足】　「開く」を押した後
　　「テキストファイルウィザード」になってしまう場合　13

　【P.3の補足】「「正答」などをマークカードから読ませる場合」または、
　【P.7の補足】「マークカードを使って採点定義をした場合」　14

　【補足説明】　カード読み込みの順序について　16

0 章 「OMR採点処理」のご紹介

「OMR採点処理」ファイル（以後「本ファイル」と表記）は、マイクロソフトエクセルのファイルです。使用の目的は、光学式マーク読取機（OMR機）で読み取った定期テストの解答を採点することです。次のような条件での利用を想定しています。

・OMR機　　セコニック社製　SR-405、SR-403
・使用マークカード　学校用062、総合カード050、総合カード052
・読み取りアプリ　　MarkView（セコニック社製）、またはtinyOMR（拙作）

tinyOMRは、下記にて公開しています。
https://www.vector.co.jp/soft/winnt/business/se529375.html

本マニュアルでは、説明の途中でtinyOMRで読み取った「サンプルデータ.csv」を使用します。また、以下の説明は、マイクロソフトエクセルをある程度操作できる方を想定しています。本マニュアルの記述に不安を感じる場合は、お近くの堪能な方に支援を求めてください。

本ファイルは、フリーウェアとして公開します。利用に対価は必要ありませんが、利用の結果生じた不利益・不都合等に対して、作者は一切の責を負いません。利用者の責任でご利用ください。また、作者が公開したWebサイト以外への再掲載や配布は禁止します。
ただし、ご質問・ご意見等には、可能な範囲で対処します。

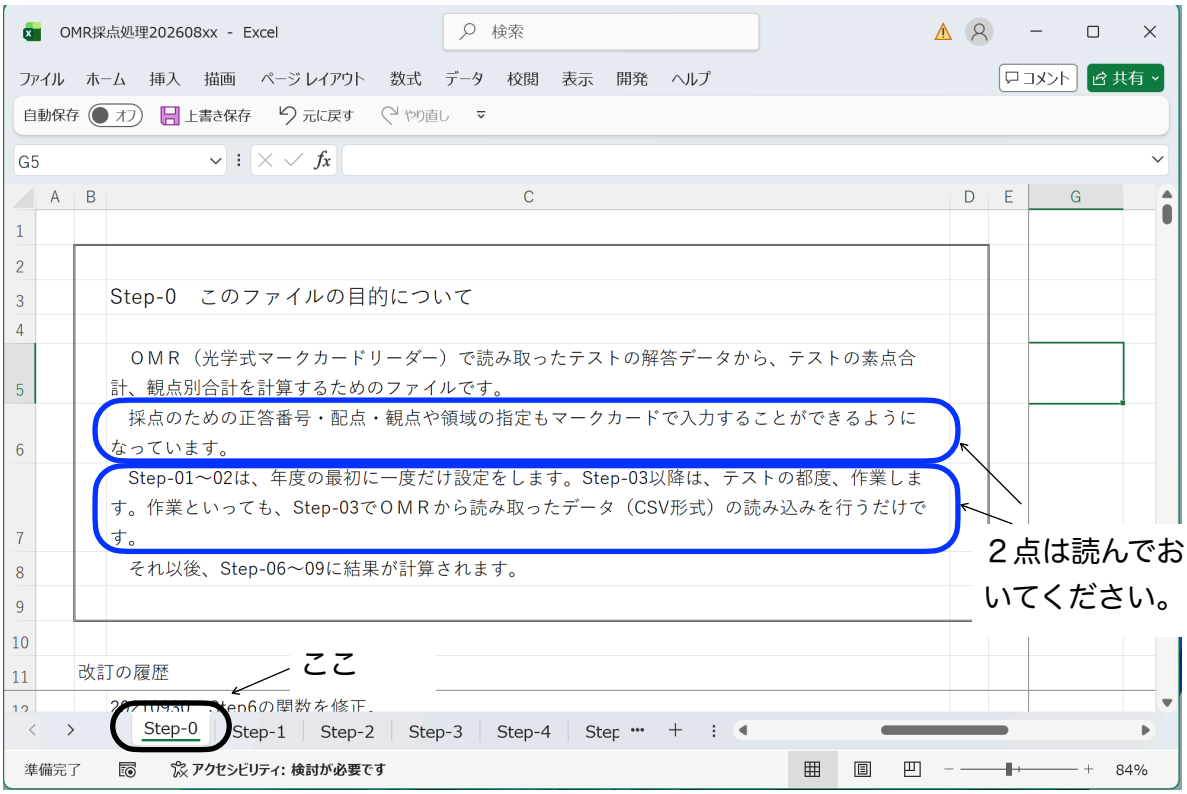
連絡先　　hideo_ito_dev@mac.com

メモ　本ファイルの現在の名称・バージョン　OMR採点処理202608xx
　　本マニュアルの作成期日　　20260820

次項より、本ファイルの画面に基づいて説明を進めていきます。

Step-0　このファイルの目的

本ファイルをダブルクリックすると、マイクロソフトエクセルが起動し、下記のようなウィンドウが表示されます。「Step-0」が表示されないときは、ウィンドウ下部の「Step-0」をクリックしてください。



1. 採点の手順の概要　～　年度はじめの作業

「OMR採点処理」では、Step-1から順に作業を進めていくと、スムーズに定期テストの採点が進みます。大まかには次のような手順になります。

Step-1～Step-2　…　年度の始めに一度だけ行う作業です。学年についての情報や生徒の名簿を入力します。

Step-3～Step-5　…　各定期テストごとに行う作業です。マークされた解答データや正誤・配点・観点等の情報を入力し、データの整合性の点検をします。

Step-6～Step-8　…　Step-5までに入力されたデータをもとに、得点の一覧表、観点別得点の一覧表、問題別の正答率等の資料が得られます。

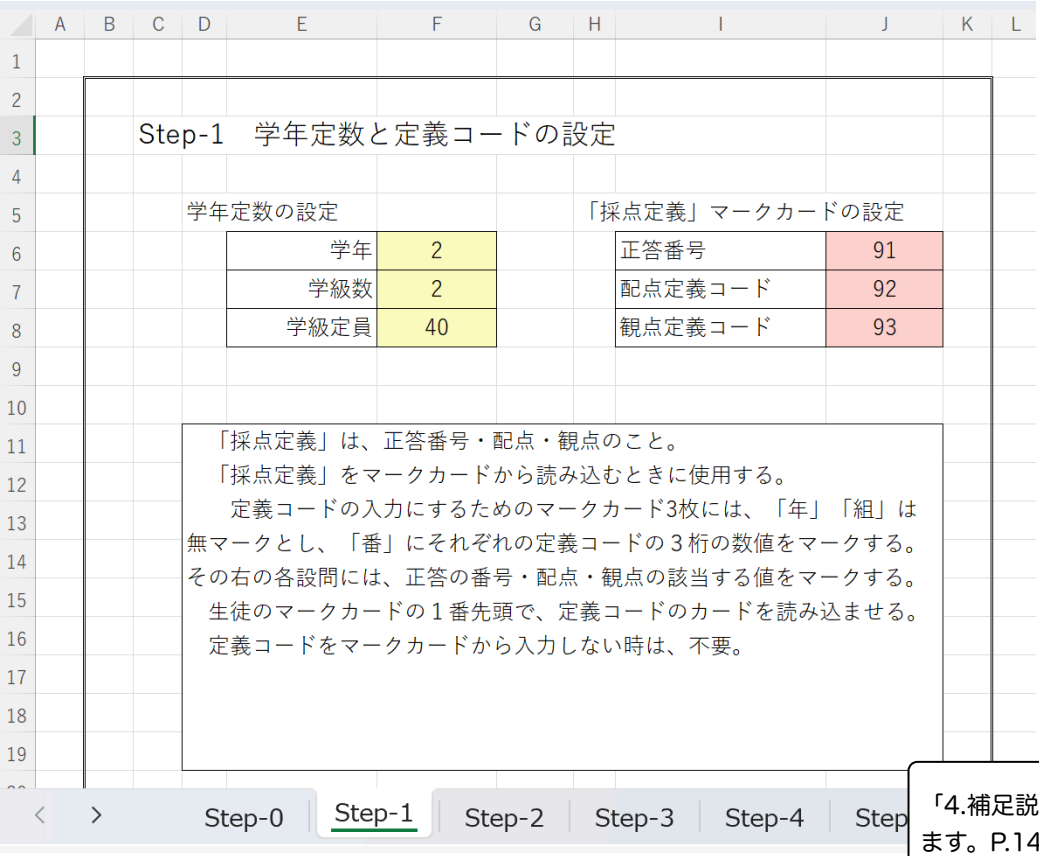
ここまでの説明を読んだら「Step-1」へ進んでください。

Step-1　学年定数と定義コードの設定

Step-1では、年度を通して使用する設定を行います。
「学年定数の設定」の下に続く３つの黄色いセルに該当する数値を入力してください。

・学年　…　説明は不要と考えます。必ず半角数字で入力してください。
・学級数　…　採点する学級数を入力します。普通は学年内の全部の学級の数です。
・学級定員　…　各学級の生徒人数に対しても、少し余裕のある切りのよい人数を「定員」としてください。たとえば、35人以上の生徒数の学級があれば、「40人」とするのが良いでしょう。ただし、男女別に名簿を作成している場合、男子を１～、女子を25～として、女子の最終番号よりさらに余裕を持つと「50人」ということになるでしょうか。

「学年」～「学級定員」は必ず半角で入力してください。



「4.補足説明」で説明します。P.14を参照してください。

画面右側の『「採点定義」マークカードの設定』は、「正答」などをマークカードから読ませる場合に使用するものです。必要があれば、画面下の説明をお読みください。

ここまで、説明を読んだら「Step-2」をクリックしてください。

Step-2　生徒名簿の入力

Step-2では、採点対象とする全生徒の氏名を入力します。

「生徒氏名」から下に続く黄色のセルに生徒の氏名を入力してください。その際「組」「番」の一致に注意してください。Step-1で設定した「学級定員」により、各組の下の方には空欄があるかもしれませんが、問題はありません。

もし年度の途中で転入生があった場合、その空欄に転入生の氏名を入力してください。また、転出した生徒が出た場合は、その生徒の行はそのまま残しておいて問題はありません。

Step-2　生徒名簿の入力

有効	GCS	SRN	学年	組	番	生徒氏名
1	201001	1	2	1	1	あおげら
1	201002	2	2	1	2	あきあかね
1	201003	3	2	1	3	あまがえる
1	201004	4	2	1	4	いもり
1	201005	5	2	1	5	うぐいす
1	201006	6	2	1	6	うめ
1	201007	7	2	1	7	えのきたけ
1	201008	8	2	1	8	おおるり
1	201009	9	2	1	9	おにやんま
1	201010	10	2	1	10	かたくり
1	201011	11	2	1	11	かなへび
1	201012	12	2	1	12	きじ
1	201013	13	2	1	13	きりぎりす

Step-0　Step-1　Step-2　Step-3　Step-4　Step-5

生徒の氏名は、普段使用しているマイクロソフトのファイルから、コピー＆ペーストして構いません。

Step-1～Step-2の作業は、年度の始めに一度だけ設定を行います。

氏名の入力ができたら、「Step-3」をクリックし、「2-1．各テストごとの作業」へ進んでください。

Step-3　OMRデータの読み込みとGCN（年組番）の妥当性の検証

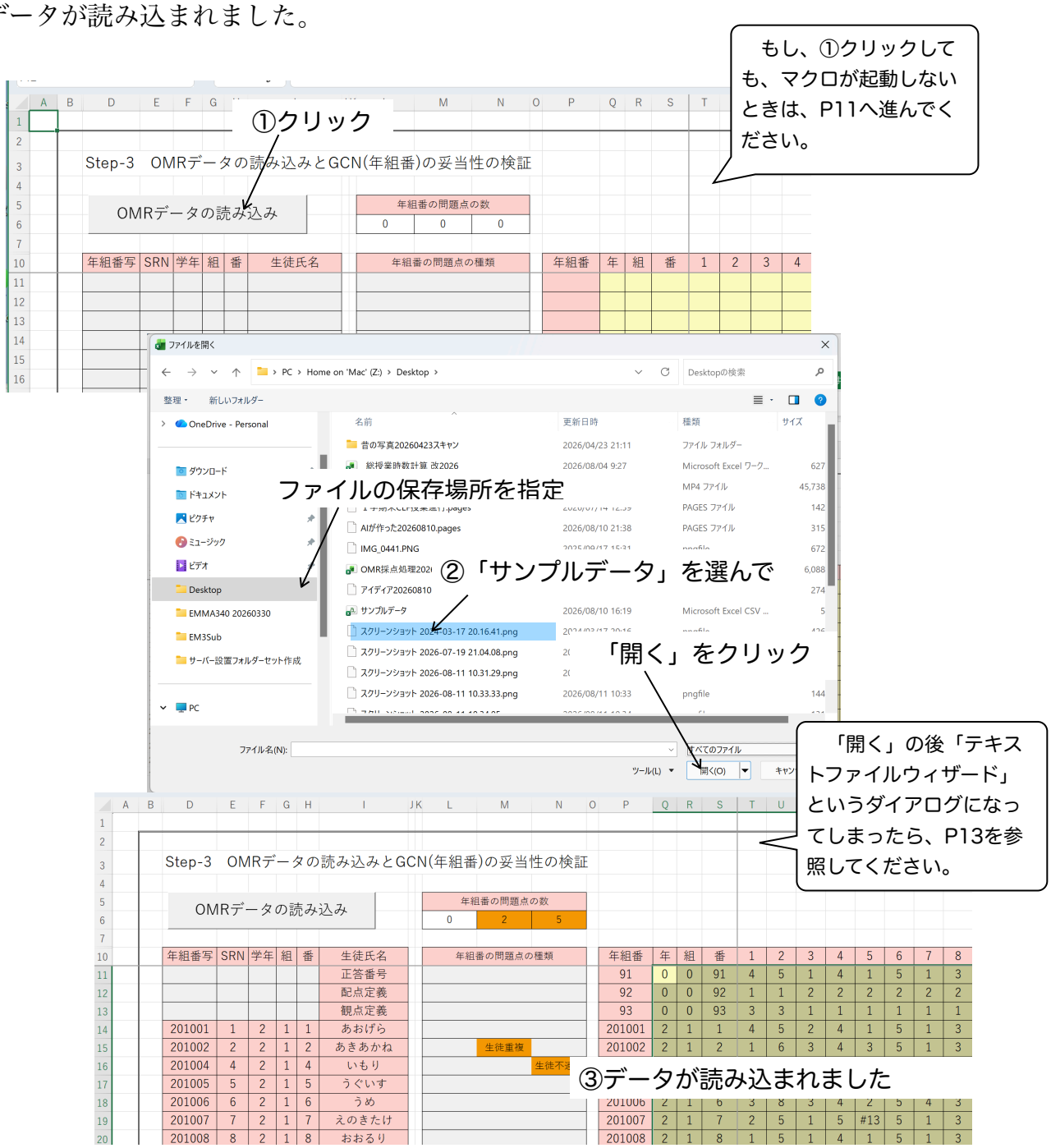
Step-3からは、定期テストのたびに行う作業になります。

Step-3では、OMR機で読み取った解答のデータを本ファイルに読み込みます。本マニュアルの説明では、下記のように「サンプルデータ」内のデータを読み込んで作業を続けます。

①「OMRデータの読み込み」ボタンをクリック

②「サンプルデータ」を選んで「開く」

③　データが読み込まれました。



無事にデータが読み込まれたら、次ページへ進んでください。

※　GCN（年組番）の妥当性の検証

データを読み込むと、多くの場合「年組番の問題点の種類」の下に赤色のセルが３列に分かれて出てきます。これを利用して、年・組・番のマークの間違いや欠席者の確認を行います。

「生徒不連続」…「ⓐ（欠席により）マークカードがない」か、「ⓑ 組の切り替わり」を表しています。ときには「ⓒ 組 や番 を間違えている生徒」も見つかります。

「生徒重複」　…　多くの場合、「ⓓ組番を間違えている生徒」が見つかります。

年組番写	SRN	学年	組	番	生徒氏名	年組番の問題点の種類			年組番	年	組	番	
201001	1	2	1	1	あおげら				201001	2	1	1	
201002	2	2	1	2	あきあかね		生徒重複		201002	2	1	2	← ⓐ 3番のカードがない 欠席か確認が必要
201004	4	2	1	4	いもり			生徒不連続	201004	2	1	4	
201005	5	2	1	5	うぐいす				201005	2	1	5	
201006	6	2	1	6	うめ				201006	2	1	6	
201007	7	2	1	7	えのきたけ				201007	2	1	7	
201008	8	2	1	8	おおるり				201008	2	1	8	
201009	9	2	1	9	おにやんま				201009	2	1	9	
201010	10	2	1	10	かたくり				201010	2	1	10	
201011	11	2	1	11	かなへび				201011	2	1	11	
201002	2	2	1	2	あきあかね		生徒重複	生徒不連続	201002	2	1	2	←ⓒⓓ12番を間違えて 2番としたか確認
201013	13	2	1	13	きりぎりす			生徒不連続	201013	2	1	13	
201014	14	2	1	14	くり				201014	2	1	14	
201034	34	2	1	34	やまばと				201034	2			
201035	35	2	1	35	りす				201035	2			←ⓑ　１組と２組の境界
202001	41	2	2	1	あおだいしょう			生徒不連続	202001	2			
202002	42	2	2	2	あけび				202002	2			
202003	43	2	1	3	いのしし				202003	2			

「年組番不適当」…「ⓔ年・組・番に存在しない番号をマークしている」か、「ⓕ年・組・番のいずれかがマークされていない」生徒が見つかります。

201005	5	2	1	5	うぐいす				201005	2	1	5	1	
101006	###	###	##	##	#N/A	年組番不適当		生徒不連続	101006	1	1	6	3	←ⓔ　学年がまちがい
201007	7	2	1	7	えのきたけ			生徒不連続	201007	2	1	7	2	
201000	###	###	##	##	#N/A	年組番不適当		生徒不連続	201000	2	1		1	←ⓕ　番がない
201009	9	2	1	9	おにやんま			生徒不連続	201009	2	1	9	4	
201010	10	2	1	10	かたくり				201010	2	1	10	4	

上記３種類の間違いを、マークカードの「年」「組」「番」を確認しながら修正してください。修正は「黄色のセル」に入力して構いません。無事に修正が完了すると、下記のように「生徒不連続」に、（欠席者の人数　＋　クラスの境界数）の値が残ります。

（欠席者の人数　＋　クラスの境界数）

OMRデータの読み込み

年組番の問題点の数		
0	0	3

年組番写	SRN	学年	組	番	生徒氏名	年組番の問題点の種類	年組番	年	組	番
					正答番号		91	0	0	91
					配点定義		92	0	0	92
					観点定義		93	0	0	93
201001	1	2	1	1	あおげら		201001	2	1	1
201002	2	2	1	2	あきあかね		201002	2	1	2
201004	4	2	1	4	いもり	生徒不連続	201004	2	1	4
201005	5	2	1	5	うぐいす		201005	2	1	5

ＧＣＮ（年組番）の妥当性の検証ができたら、Step-4へ

Step-4　採点定義の決定

Step-4では、採点定義（正答番号・配点・観点）を設定します。

Step-4　採点定義の決定

Ⓐ マークカードから読み込んだ採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
正答番号	4	5	1	4	1	5	1	3	1	2	2	7	2	1	2	1	6	2	6	3	7	1	6	1	4	6	6	8	6	2		
配点定義	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
観点定義	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2		

Ⓑ エクセル上で手入力する採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
正答番号																																
配点定義																																
観点定義																																

Ⓒ Step-5～6で採点に使用する採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
正答番号	4	5	1	4	1	5	1	3	1	2	2	7	2	1	2	1	6	2	6	3	7	1	6	1	4	6	6	8	6	2		
配点定義	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
観点定義	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2		

Ⓐ　マークカードを使って採点定義をした場合、Ⓐの領域に採点定義の値が表示されます。

「4.補足説明」で説明します。P.14を参照してください。

Ⓑ　手入力で、採点定義をする場合は、Ⓑの領域に入力してください。

Ⓒ　実際に採点に使われる「採点定義（正答番号・配点・観点）」がここに表示されます。
各問題ごとに、次のようにして採点定義を決めていきます。
　Ⓑが入力されているときは、Ⓒの値はⒷと同じになります。
　Ⓑが空欄のときは、Ⓐが使われます。
　すなわち、Ⓐで読み込んだマークカードの一部を、Ⓑに入力することで訂正することができます。

マークカードから読み込んだ採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
正答番号	4	5	1	4	1	5	1	3	1	2	2
配点定義	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
観点定義	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1

エクセル上で手入力する採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
正答番号					3						
配点定義	2	2									
観点定義											

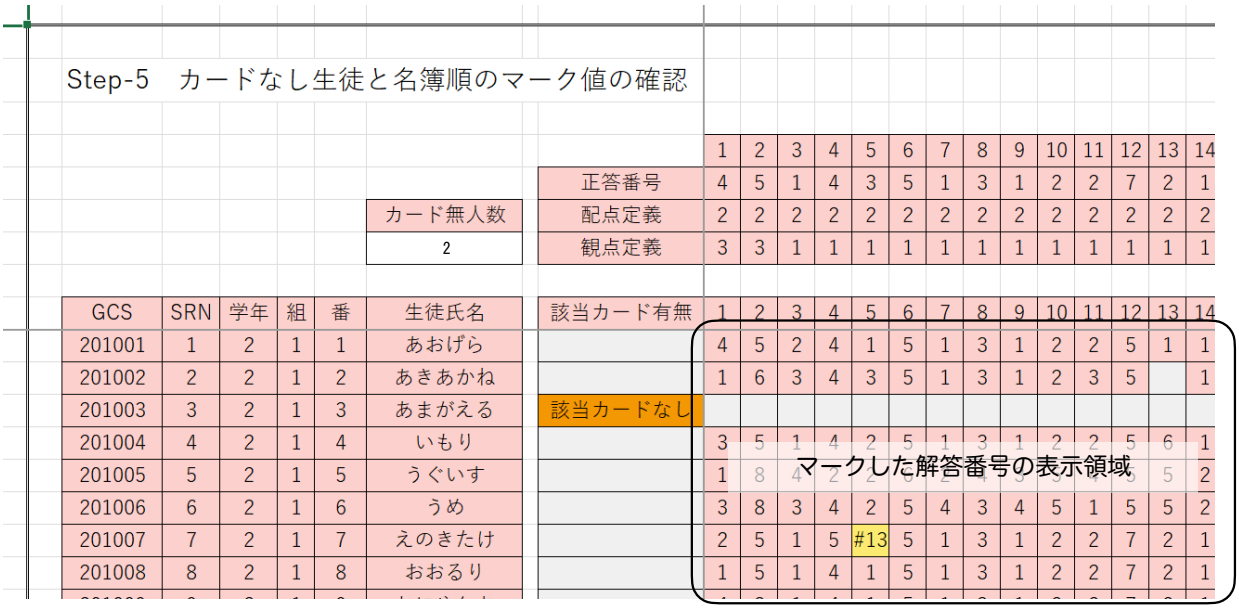
Step-5～6で採点に使用する採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
正答番号	4	5	1	4	3	5	1	3	1	2	2
配点定義	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
観点定義	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1

Step-5　カードなし生徒と名簿順のマーク値の確認

Step-5では、欠席者の人数に間違いがないかを確認してください。

また、欠席者には、下記のように「該当カードなし」が表示されます。もし、欠席していない生徒に「該当カードなし」が出る場合、P7「Step-3の続き、ＧＣＮ（年組番）の妥当性の検証」に戻って、年・組・番の間違いを探してください。



上図の「マークした解答番号の表示領域」に見られる黄色のセルは、単印列に複印をした場合など、解答の方法に間違いがある（ファウル）状況を示しています。これらをどう扱うかは、各自にご検討ください。

次は、いよいよ採点結果表示です。

３章　採点結果の表示

Step-6　得点合計計算（観点・領域別の指定なし）

Step-6は、各問題の正誤をつけ、合計点を求めます。
正答のときは、各問題のセルにその問題の配点の数字が入ります。
誤答のときは、空欄として表示します。

「合計点」の欄を生徒全員確認してください。もし、Step-5までに、解決していない間違いがあると、合計点のセルでエラーが出ています。

Step-6　得点合計計算（観点・領域別の指定なし）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
正答	4	5	1	4	3	5	1	3	1	2	2	7	2	1	2	1	6	2
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
観点	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

GCS	SRN	学年	組	番	生徒氏名	合計点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
201001	1	2	1	1	あおげら	48	2	2		2		2	2	2	2	2	2			2	2	2	2	2
201002	2	2	1	2	あきあかね	30				2	2	2	2	2	2	2				2	2	2	2	
201003	3	2	1	3	あまがえる																			
201004	4	2	1	4	いもり	50		2	2	2		2	2	2	2	2	2			2	2	2	2	2
201005	5	2	1	5	うぐいす	10															2	2	2	
201006	6	2	1	6	うめ	28				2		2		2							2	2	2	2
201007	7	2	1	7	えのきたけ	36		2	2			2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
201008	8	2	1	8	おおるり	56		2	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
201009	9	2	1	9	おにやんま	54	2		2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
201010	10	2	1	10	かたくり	52	2	2				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
201011	11	2	1	11	かなへび	58	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
201012	12	2	1	12	きじ	28				2		2			2	2	2	2		2	2		2	
201013	13	2	1	13	きりぎりす	52	2		2	2		2	2	2	2	2	2	2		2	2	2	2	2

正誤を表示する領域
正答のときは配点の値になり、
誤答のときは、空欄になる

Step-6以降、「合計点」等、必要な領域を選択し、コピーすることができます。他のエクセルファイル上に「値で貼り付け」て活用してください。

Step-7　観点・領域別の得点集計

Step-7は、観点・領域別の合計点を表示します。観点・領域別の合計点をさらに合計すれば、Step-6での合計点と一致するはずです。しかし、何かの間違いでこれが一致しない生徒には、「相違有」に表示が出るので、前に戻って確認をしてください。

Step-7　観点・領域別の得点集計

								観点・領域別	各観点・領域の得点								
GCS	SRN	学年	組	番	生徒氏名	Step-6の合計点	相違有	合計点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
201001	1	2	1	1	あおげら	48		48	36	8	4						
201002	2	2	1	2	あきあかね	30		30	30								
201003	3	2	1	3	あまがえる												
201004	4	2	1	4	いもり	50		50	36	12	2						
201005	5	2	1	5	うぐいす	10		10	8	2							
201006	6	2	1	6	うめ	28		28	26	2							
201007	7	2	1	7	えのきたけ	36		36	34		2						
201008	8	2	1	8	おおるり	56		56	42	12	2						
201009	9	2	1	9	おにやんま	54		54	40	12	2						
201010	10	2	1	10	かたくり	52		52	36	12	4						
201011	11	2	1	11	かなへび	58		58	42	12	4						
201012	12	2	1	12	きじ	28		28	24	4							

Step-8　各問題ごとの正解数と正解率

問題ごとの「正解数」「正解率」の一覧表を表示します。一覧表は、問題番号順と正解数の多い順の２通りを表示します。最大100行まで表ができていますが、必要がない行は、非表示にして印刷してください。

Step-8　各問題ごとの正解数と正解率

問題番号	正解数	正解率	正解数順位	正解数順位	問題番号	正解数	正解率
1	27	40.3	29	1	19	65	97.01
2	39	58.21	25	2	17	64	95.52
3	48	71.64	19	3	15	62	92.54
4	56	83.58	9	4	6	61	91.04
5	4	5.97	30	5	7	58	86.57
6	61	91.04	4	6	9	58	86.57
7	58	86.57	5	7	14	57	85.07
8	56	83.58	10	8	23	57	85.07
9	58	86.57	6	9	4	56	83.58
10	56	83.58	11	10	8	56	83.58
11	50	74.63	16	11	10	56	83.58
12	41	61.19	23	12	21	54	80.6
13	31	46.27	28	13	22	52	77.61
14	57	85.07	7	14	24	51	76.12

以上で、「OMR採点処理」ファイルの説明を終わります。

４章　補足説明（トラブルシューティング）

【P.5の補足】　Step-3　でマクロが起動しなかった場合

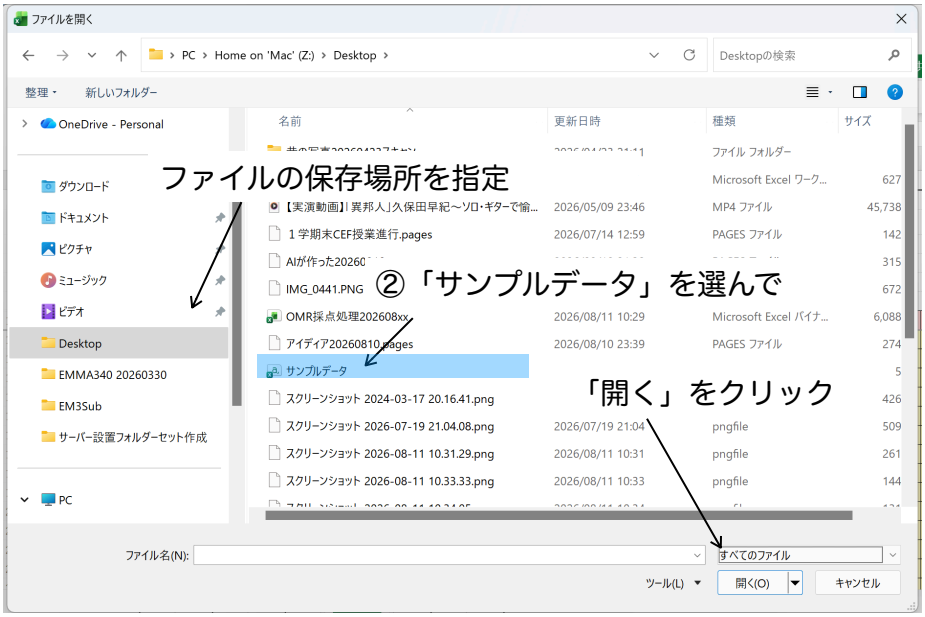
セキュリティー対策として、マクロの実行を認めていない職場もあるかもしれません。もし、マクロの実行を許可してもらえない場合は、マクロが行うのと同じ作業を手作業で行なってください。マクロのはたらきは、以下のとおりです。

ⓐ　（マークカードから読み込んだ）ファイルを指定して開き、
ⓑ　そのファイル内のデータをコピーし、
ⓒ　Step-3の定位置に値で貼り付ける

ⓐ　（マークカードから読み込んだ）ファイルを指定して開く

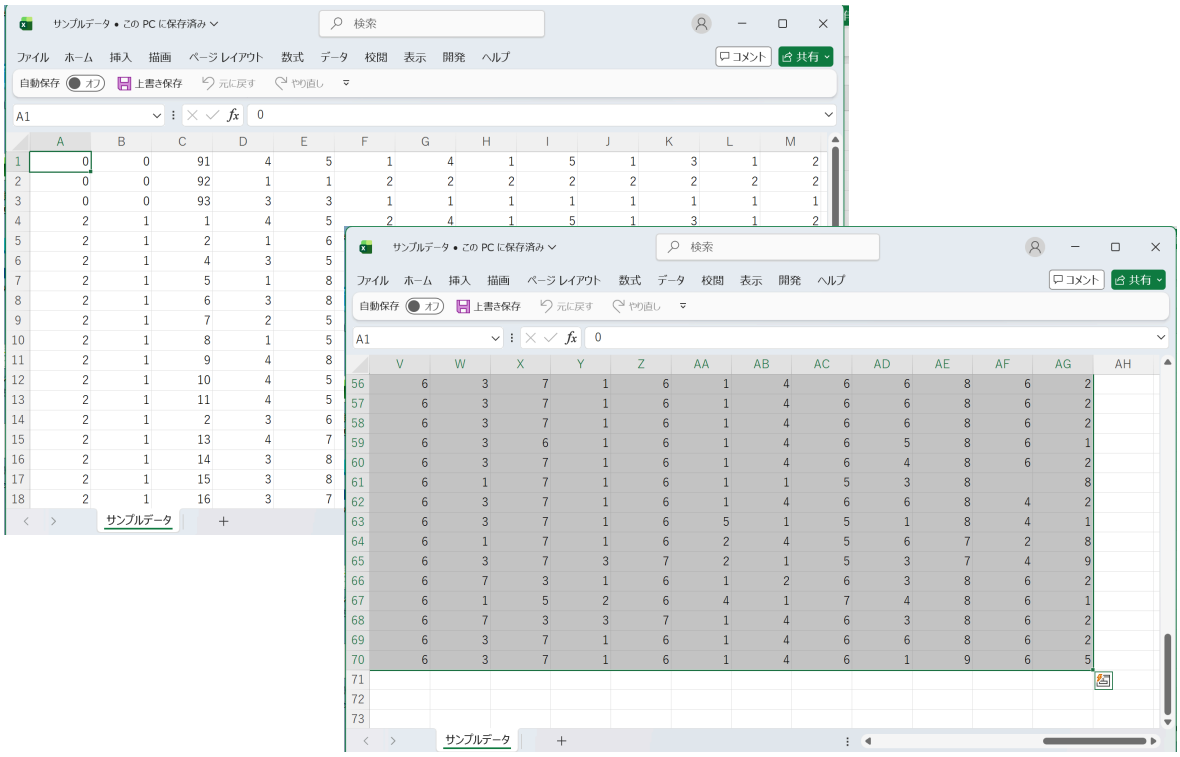
下の画面が表示されている状況で、「ファイル」タブ→「開く」と進めます。

「ファイルを開く」ダイアログが表示されたら、「サンプルデータ」を選んで開いてください。



ⓑ　そのファイル内のデータをコピーする

表示された「サンプルデータ」の読み込まれている全部のデータを選択し、「コピー」をします。このサンプルデータでは、A1～AG70がコピーする対象になります。

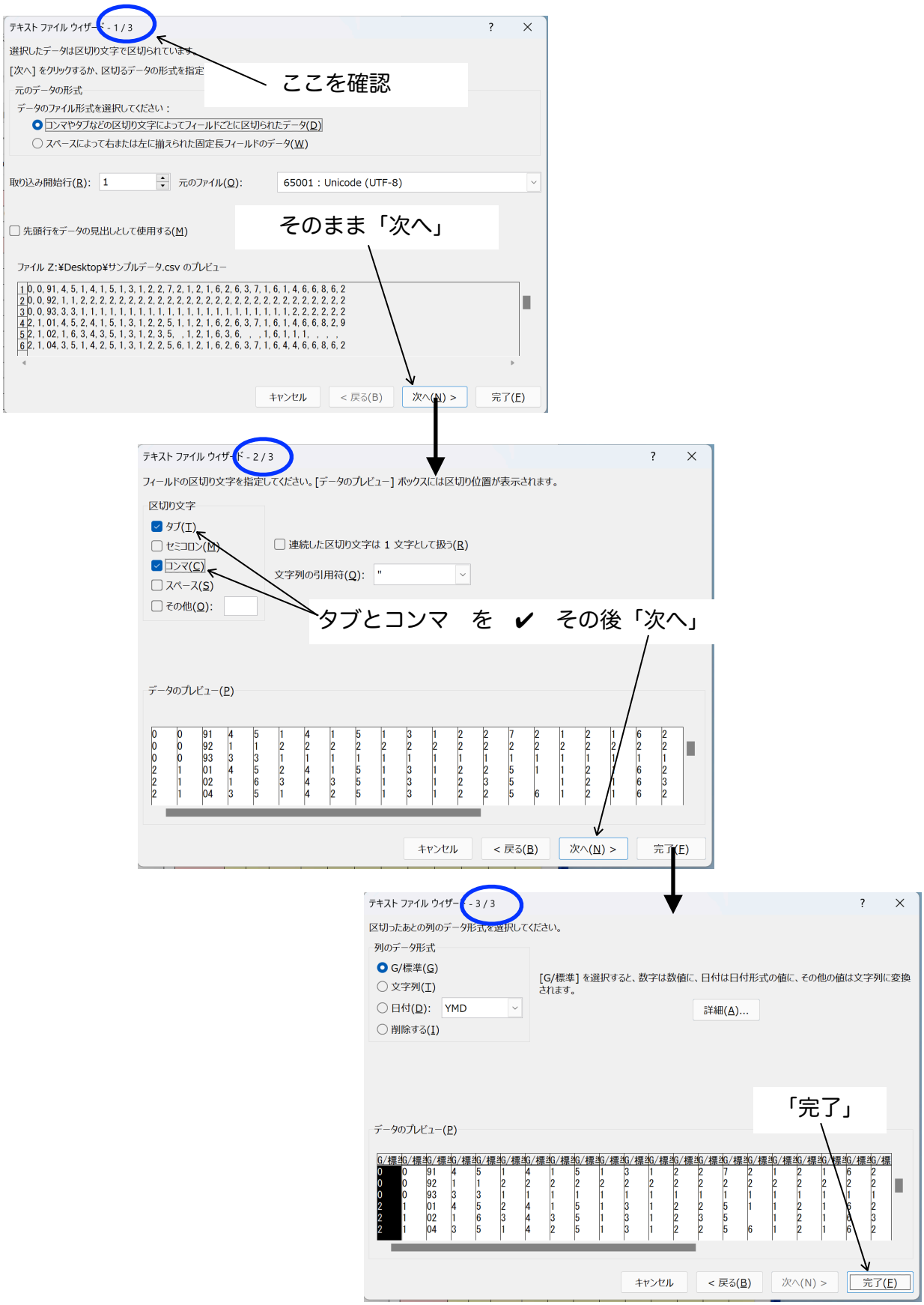


ⓒ　Step-3の定位置に値で貼り付ける

本ファイルにもどり、Step-3のQ11をクリックし、「値で貼り付け」を行います。

P６「※　GCN（年組番）の妥当性の検証」進んでください。

【P.5の補足】　「開く」を押した後「テキストファイルウィザード」になってしまう場合



データが読み取られ、P.5の３つめの図になったら、P６「※　GCN（年組番）の妥当性の検証」へ進んでください。

【P.3の補足】「「正答」などをマークカードから読ませる場合」　または、
【P.7の補足】「マークカードを使って採点定義をした場合」

本ファイルでは、各問題ごとの「正答」「配点」「観点・領域」をまとめて「採点定義」と呼んでいます。「採点定義」の値は、Step-4で決定し、以後の採点等に利用されます。

この「採点定義」の値を、生徒の解答データの読み込みのときに、いっしょに読み込むこともできます。その手順は、次の①～④のとおりです。

① 「採点定義」入力用のカードを３枚つくります。
② 生徒の解答のカードの先頭で、「採点定義」の３枚をOMR機で読み取ります。
③ 本ファイルのStep-3で、生徒の解答カードといっしょに読み込みます。
④ 「採点定義」カードに誤りがあれば、Step-4で修正をします。

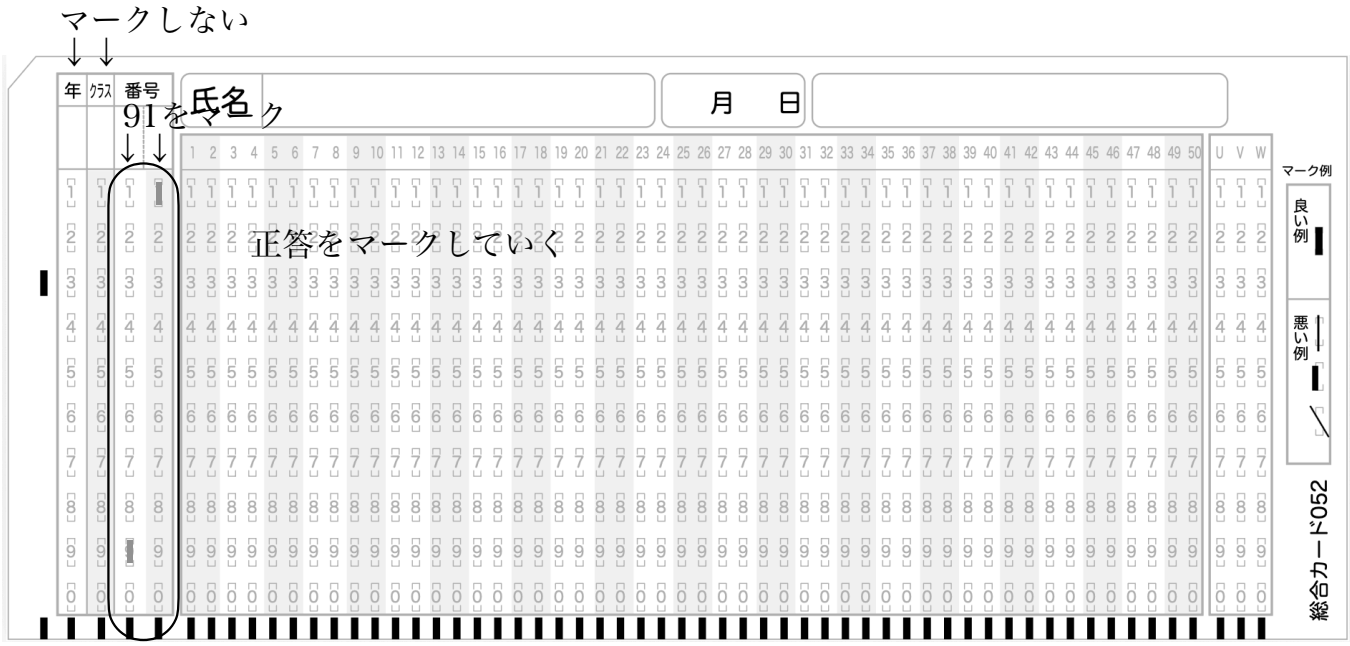
以下に、順次説明をします。

① 「採点定義」入力用のカードを３枚つくります。

３枚のカードを用意し、「年」「組」「番」を次のようにマークします。

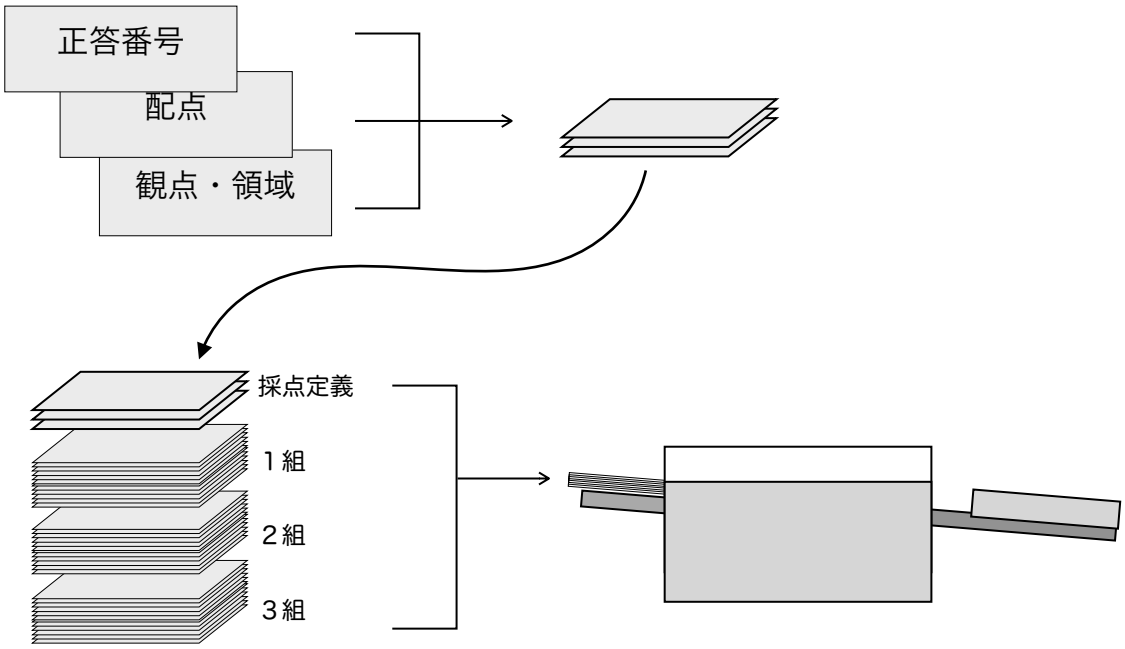
年	組	番	カードの役割
（無）	（無）	91	正答番号、0～9
（無）	（無）	92	配点、１～９点まで可
（無）	（無）	93	観点・領域の番号、1～9まで利用可

例えば、「正答番号」のカードは、下のようにマークします。



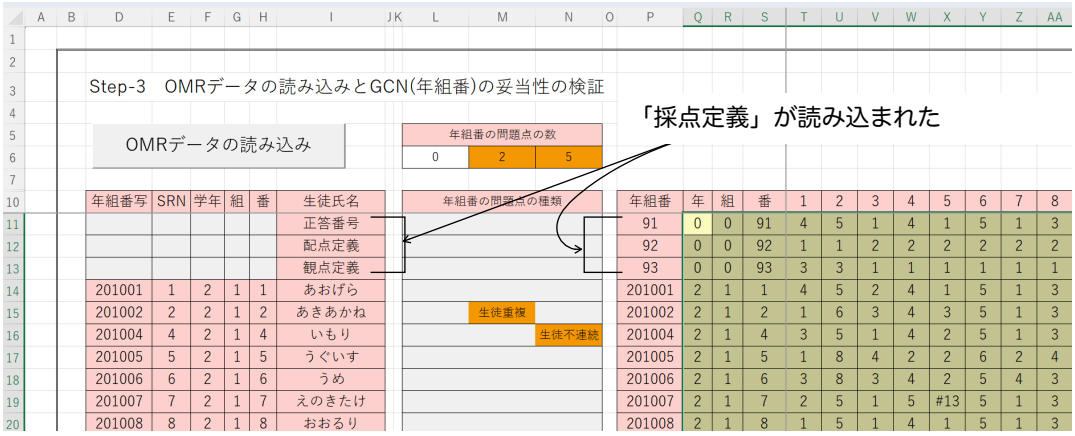
② 生徒の解答のカードの先頭で、「採点定義」の３枚をOMR機で読み取ります。

３枚のカードを一つにまとめ、学年の先頭で、OMR機に読みとらせ、その後、クラス順に読み取らせます。



P16「※　カード読み込みの順序について」を参照してください。
同様の理由から、「採点定義」も学年の先頭で読み取ることが合理的であると考えます。

③ 本ファイルのStep-3で、生徒の解答カードといっしょに読み込みます。



④　「採点定義」カードに誤りがあれば、Step-4で修正をします。

マークカードから読み込んだ採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
正答番号	4	5	1	4	1	5	1	3	1	2	2
配点定義	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
観点定義	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1

エクセル上で手入力する採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
正答番号					3						
配点定義	2	2									
観点定義											

Step-5～6で採点に使用する採点定義

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
正答番号	4	5	1	4	3	5	1	3	1	2	2
配点定義	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
観点定義	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1

「マークカードから読み込んだ採点定義」にまちがいがあるときは、「エクセル上で手入力する採点定義」に入力すれば、訂正して採点されるようになります。

【補足説明】　カード読み込みの順序について

本ファイルで、マークカードを読み込んで処理するときに、実際にはカードの順番に制約はありません。どんな順番で読み込んでも、Step-5以降、生徒名簿の順番に表示をして処理を進めていくことはできます。しかし、種々の間違い等の修正をすることを考えると、Step-3で読み込む段階から、学級順・番号順に並んでいることが、能率的な作業につながります。